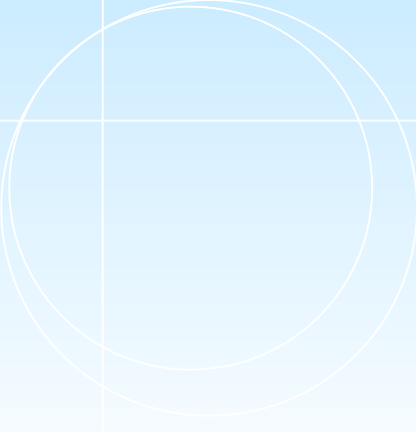




医療ネットワーク岡山 (愛称:晴れやかネット) 概要説明資料

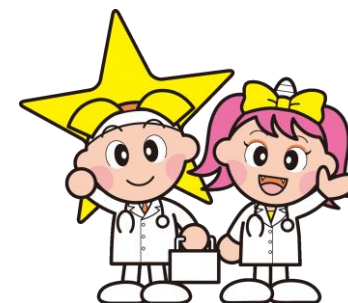


平成27年5月28日

**一般社団法人
医療ネットワーク岡山協議会**

岡山県の医療状況

もんげー
岡山!



■ 県内の医師数（平成24年12月31日現在）

①医療圏ごと

（単位：人）

	県南 東部	県南 西部	高梁 ・新見	真庭	津山 ・英田	県計	全国
医師総数	3,066	2,010	103	76	363	5,618	303,268
人口10万人 当たり医師数	332.8	281.9	154.2	156.3	194.2	290.2	237.8

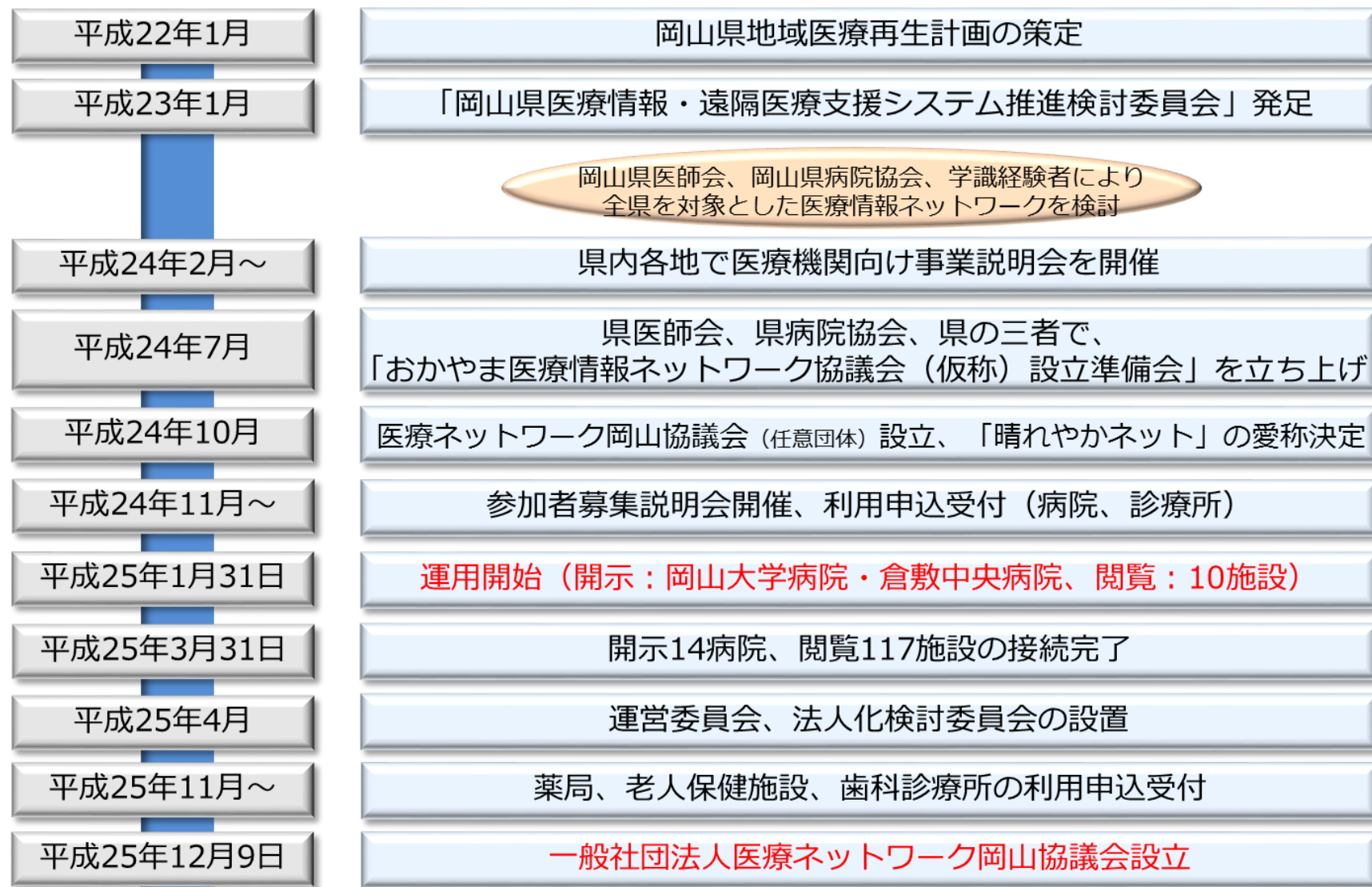
②市町村ごと

（単位：人）

市町村	医師数	市町村	医師数	市町村	医師数
【県南東部】		総社市	120.5	【津山・英田】	
岡山市	385.0	浅口市	104.4	津山市	266.4
玉野市	176.0	早島町	321.8	美作市	112.1
備前市	157.6	里庄町	91.9	鏡野町	150.6
瀬戸内市	162.0	矢掛町	114.8	勝央町	89.7
赤磐市	115.5			奈義町	100.3
和気町	125.9	【高梁・新見】		西粟倉村	0.0
吉備中央町	183.3	高梁市	202.6	久米南町	77.5
		新見市	103.9	美咲町	65.4
【県南西部】		【真庭】			
倉敷市	354.2	真庭市	157.2		
笠岡市	170.7	新庄村	109.4		
井原市	104.8				



設立までのあゆみ



ネットワーク現況

概要

岡山

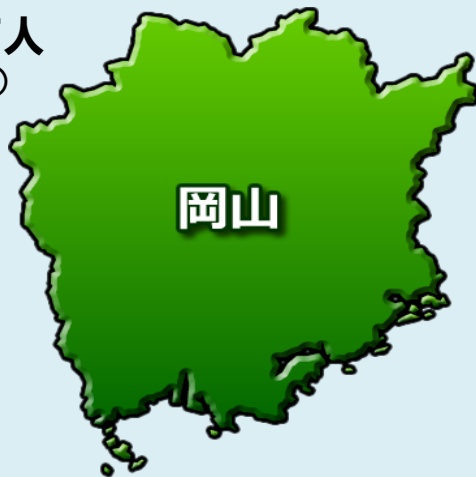
岡山県全域

対象人口 約192万人

(平成26年12月1日現在)

運用開始日

平成25年 1月



システムベンダー

- 富士通株式会社
- 日本電気株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ
- 株式会社両備システムズ

参加施設数

(平成27年3月31日現在)

情報開示施設

■岡山市(18)

岡山大学病院
川崎医科大学附属川崎病院
岡山医療センター
岡山済生会総合病院
岡山赤十字病院
岡山市立市民病院
岡山労災病院
岡山協立病院
心臓病センター榊原病院
岡山旭東病院
光生病院
重井医学研究所附属病院
岡山中央病院
岡村一堂病院
岡山リハビリテーション病院
岡山西大寺病院
竜操整形外科病院
岡山画像診断センター

■倉敷市(14)

川崎医科大学附属病院
倉敷中央病院
水島協同病院
倉敷成人病センター
しげい病院
倉敷平成病院
倉敷スイートホスピタル
倉敷記念病院
倉敷第一病院
倉敷リハビリテーション病院
水島中央病院
松田病院
玉島協同病院
渡辺胃腸科外科病院

■津山市(2)

津山中央病院
中島病院

51施設

■笠岡市(2)

笠岡市立市民病院
笠岡第一病院

■井原市(1)

井原市立井原市民病院

■高梁市(2)

高梁中央病院
高梁市国民健康保険成羽病院

■新見市(1)

渡辺病院

■備前市(3)

備前市国民健康保険
市立備前病院
備前市国民健康保険
市立日生病院
備前市国民健康保険
市立吉永病院

■赤磐市(1)

赤磐医師会病院

■真庭市(3)

落合病院
金田病院
真庭市国民健康保険
湯原温泉病院

■浅口市(1)

金光病院

■早島町(1)

南岡山医療センター

■矢掛町(1)

矢掛町国民健康保険病院

■鏡野町(1)

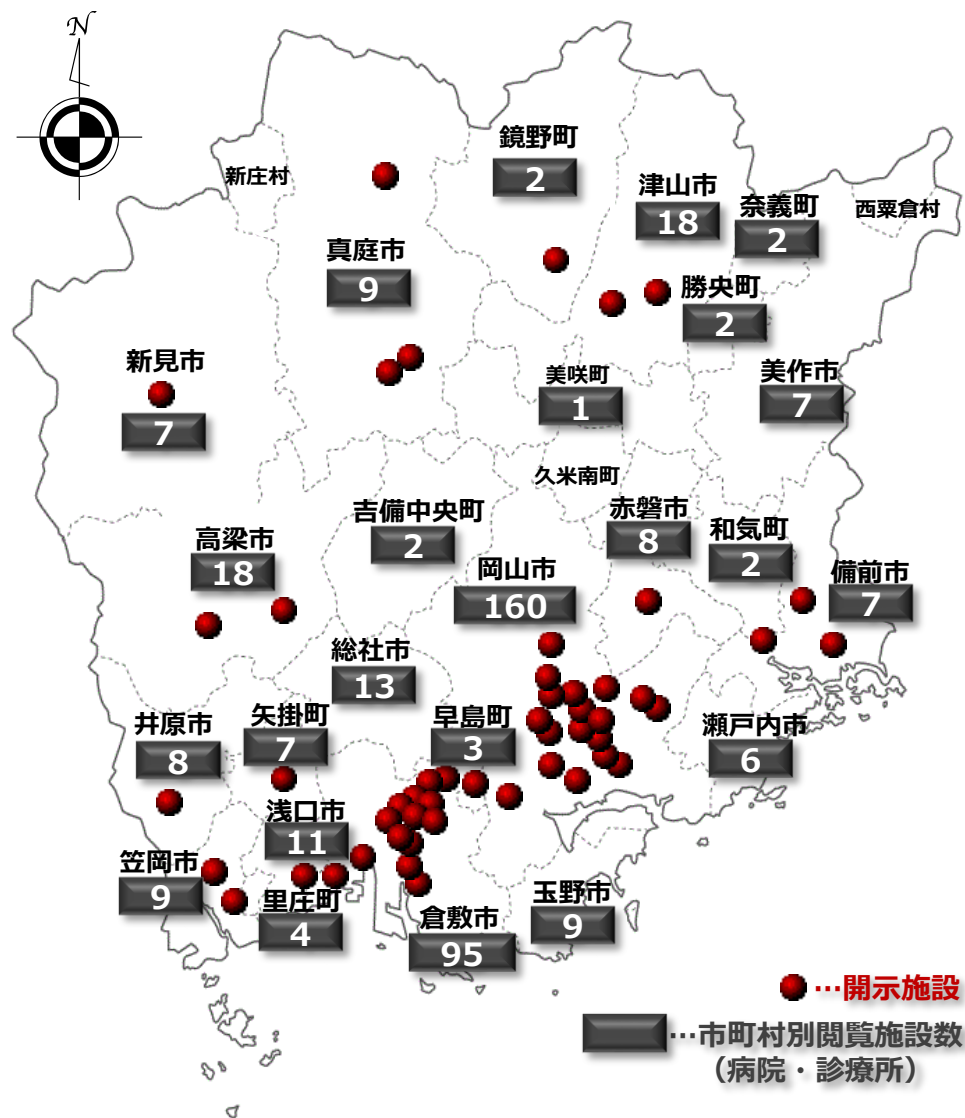
鏡野町国民健康保険病院

情報閲覧施設

418施設 (2,282名)

病 院	施設数	ID数
診療所	112	1,913
保 険 薬 局	203	252
介護老人保健施設	99	113
	4	4

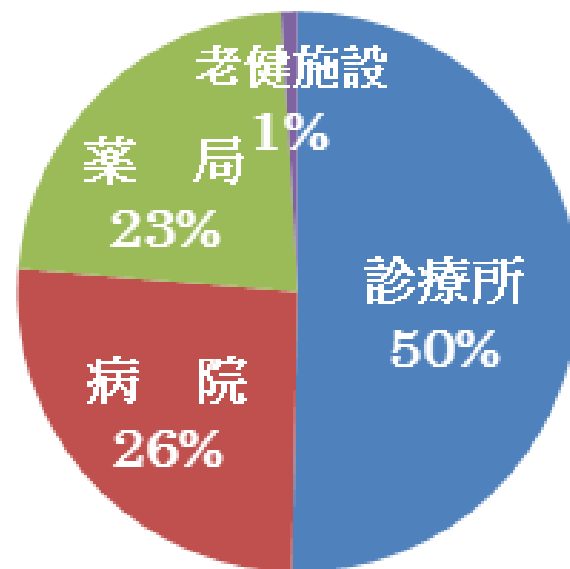
岡山県全域に広がるネットワーク



参加施設数

	開 示	閲 覧	ID利用登録者数
病院	50	112	1,913
診療所	1	203	252
薬局		99	140
介護老人保健施設		4	4
	51	418	2,309

平成27年3月31日現在



参加施設の割合

ネットワークの全体イメージ

✓ HumanBridgeとID-Linkをポータルで統合した共存型のネットワーク

電子カルテ・オーダーリングシステムを持つ病院

マルチベンダー方式

<富士通>
電子カルテ
PACS

連携
サーバ

<NEC>
電子カルテ
PACS

連携
サーバ

<その他>
電子カルテ
PACS

連携
サーバ

カルテ開示

ポータルサーバ

医療・介護関係機関

多職種による
連携シートの共有

地域医療連携
サーバ

平成26年3月
運用開始

地域の病院

PC

カルテ参照
結果参照
(画像、検査等)

診療所

PC

カルテ参照
結果参照
(画像、検査等)

保険薬局

PC

病名、処方等に限定して参照

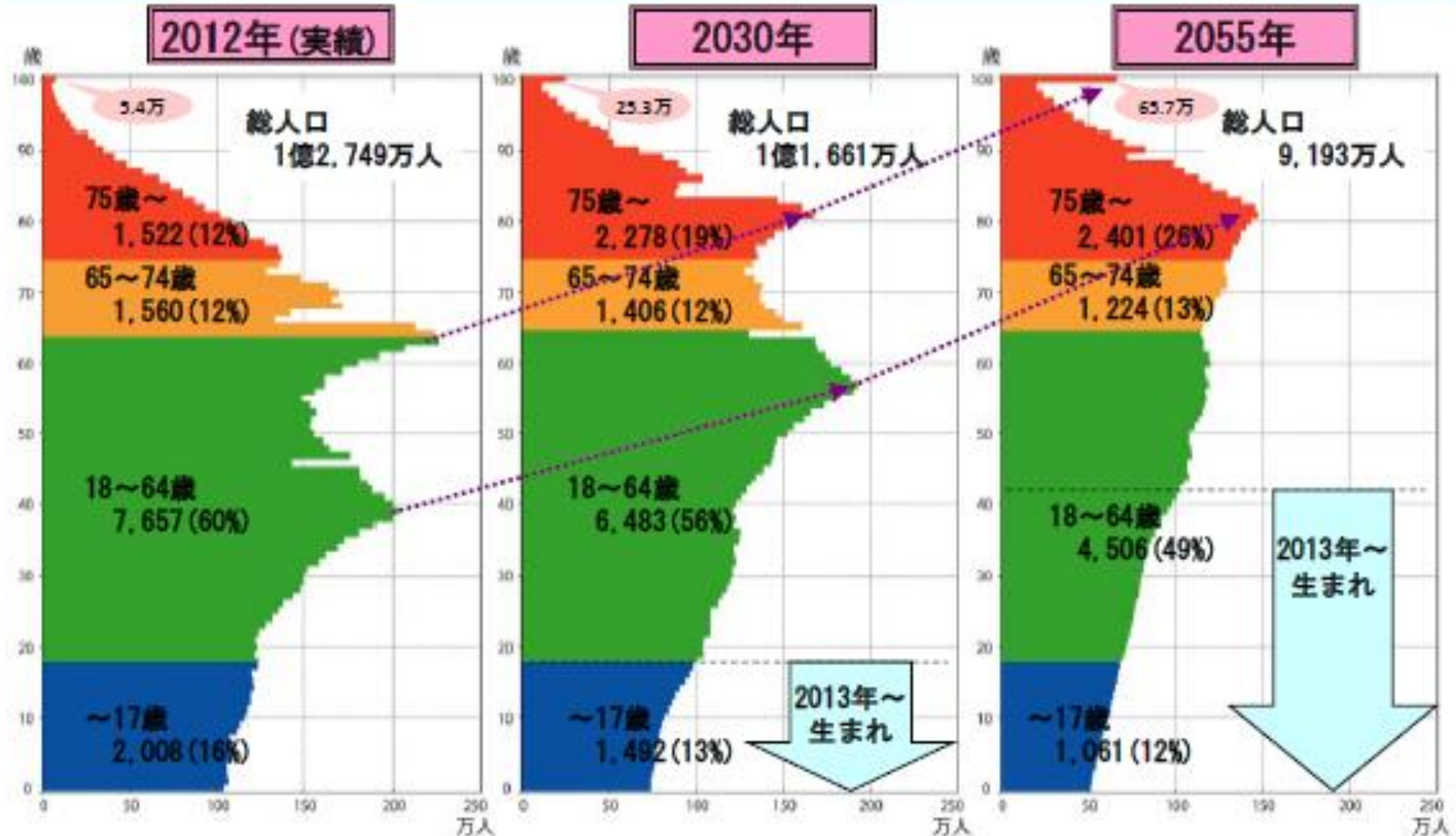
介護老人保健施設

PC

カルテ参照
結果参照
(医師のみに限定)

カルテ閲覧

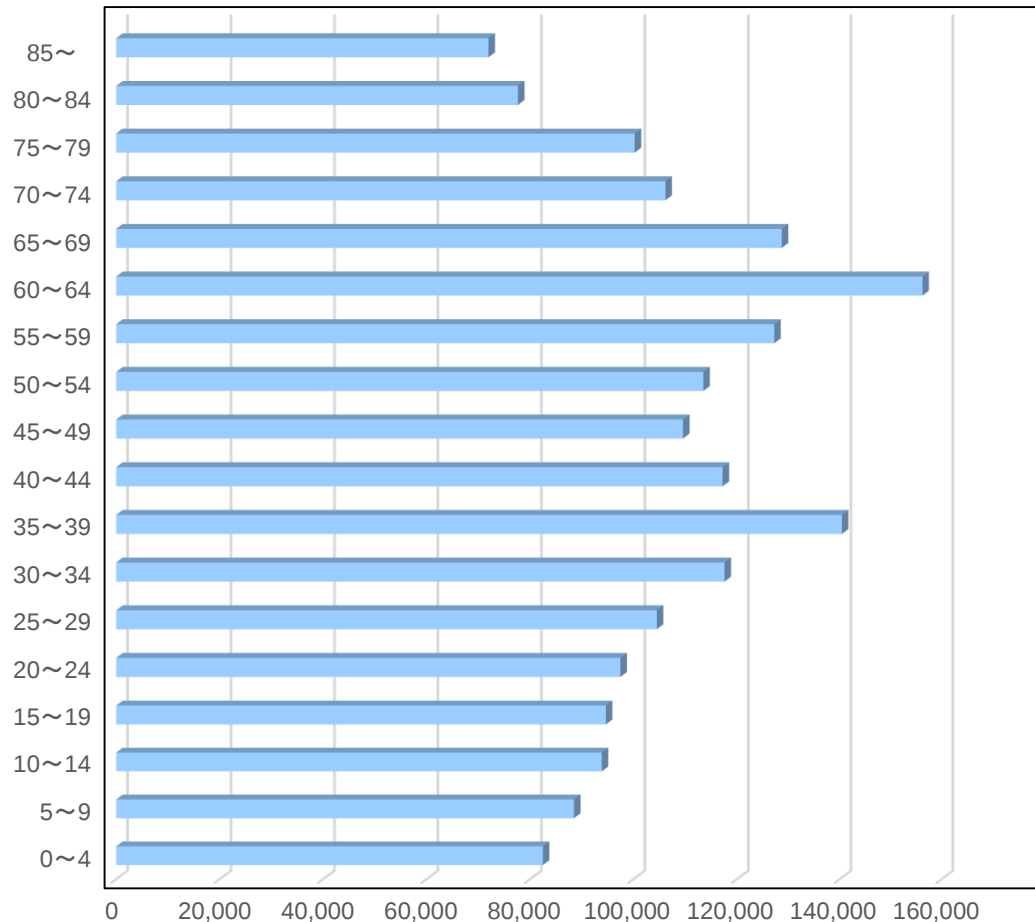
人口ピラミッドの変化～平成24年中位推計～



注: 2012年は国勢調査結果。総人口には年齢不詳人口を含むため、年齢階級別人口の合計と一致しない。
2030・2055年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

岡山県が直面する高齢化の状況

現在の年齢別人口構成



平成22年10月1日現在の岡山県の人口 1,945,276人
＜内訳＞ 男933,168人 女1,012,108人 世帯数は754,511世帯

出展：岡山県庁ホームページ 「平成22年国勢調査 人口等基本集計（人口、世帯等に関する基本的事項）」より
<http://www.pref.okayama.jp/page/266533.html>

75歳以上人口推移

2010年：25万2,579人



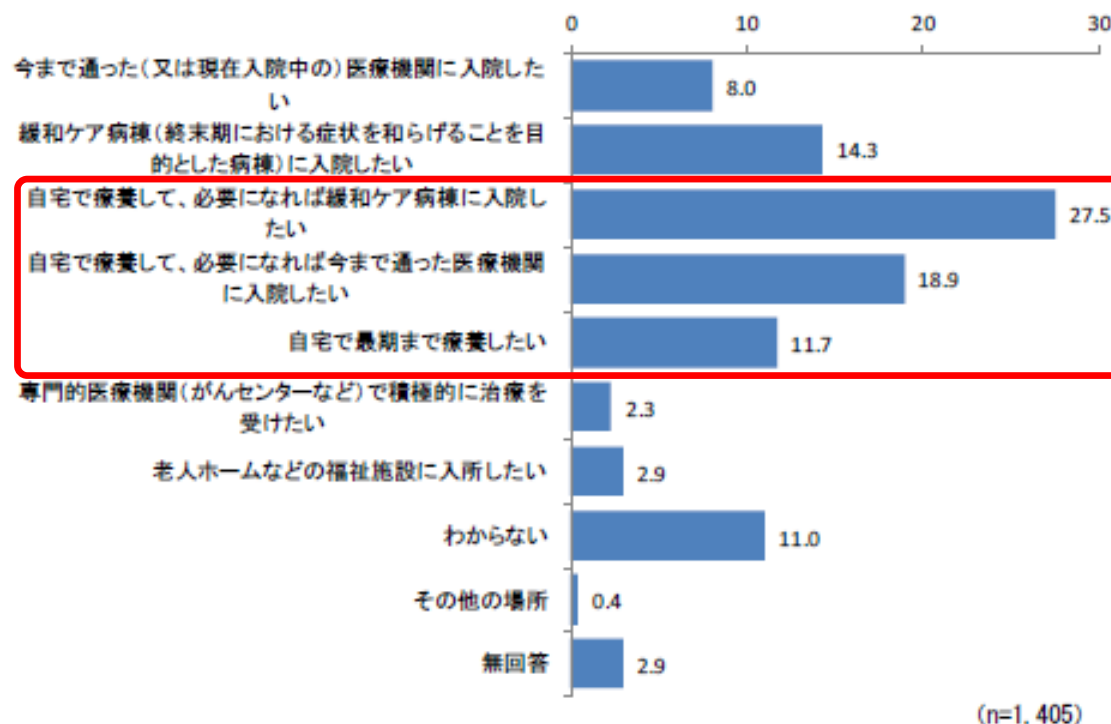
2030年：35万3,272人

出展：国立社会保障・人口問題研究所ホームページ
<http://www.ipss.go.jp/pp-pjsetai/j/hpjp2014/t-page.asp>

アンケートにみる在宅療養の希望

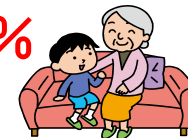
自宅で療養したいと希望する人の割合が高い

■ あなたの余命が6ヶ月程度あるいはそれより短い期間と告げられた場合、療養生活は最後までどこで送りたいですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。



自宅で療養したい
(必要になれば医療機関への入院を含む)

58.1%



- 第3次おかやま夢づくりプランに係る 県民満足度調査
1. 調査地域 岡山県内市町村
 2. 調査対象者 岡山県内市町村在住の20歳以上の男女2,500人
 3. 調査方法 住民基本台帳から無作為抽出して調査票を郵送配布(郵送回収)
 4. 回収結果1,405人(回答率56.2%)
 5. 調査期間平成25年6月5日(水)～6月21日(金)

地域包括ケアシステムの必要性

地域包括ケアシステムの構築がますます重要に

- 2025 年に向け高齢化がさらに進展することが予想されている。

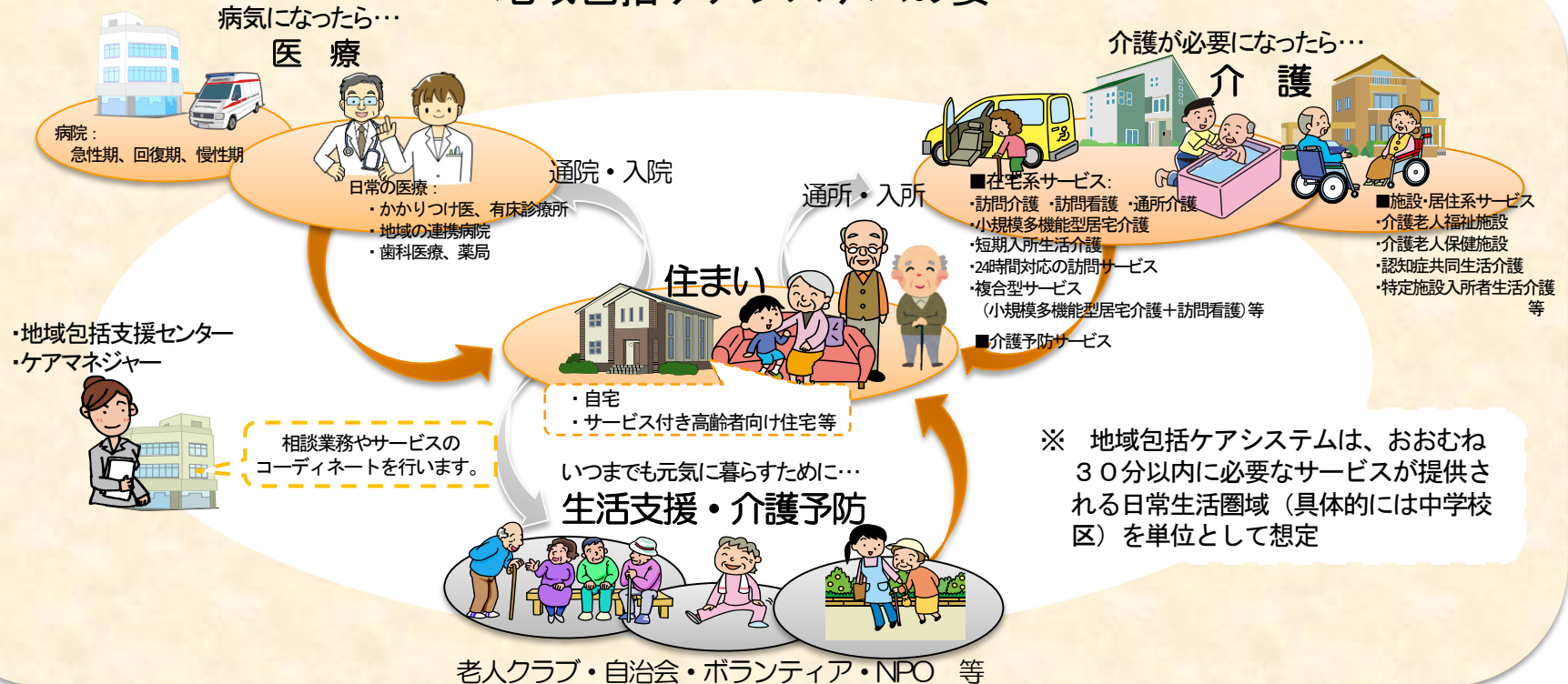
	2012 年 8 月		2025 年
65 歳以上の高齢者	3, 058 万人	→	3, 657 万人
75 歳以上の後期高齢者	1, 511 万人	→	2, 179 万人

- 独居の高齢者世帯や高齢者のみの世帯が増加し、さらに首都圏をはじめとする都市部において急速に後期高齢者人口が増えることが予測されている。
- そのような中、多くの国民が自宅等住み慣れた環境での療養を望んでいることから、できる限り住み慣れた地域で安心して自分らしい生活を実現できる社会を目指す必要がある。

そのためには、介護、医療、住まい、生活支援、予防が一体的に提供される地域包括ケアシステムを構築することがますます重要となる。

介護の将来像(地域包括ケアシステム)

地域包括ケアシステムの姿



- **住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの実現により、重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるようになります。**
- 認知症は、超高齢社会の大きな不安要因。今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差を生じています。**
地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や、都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要です。**

医療関係者からの提案を募集し、方向性を検討



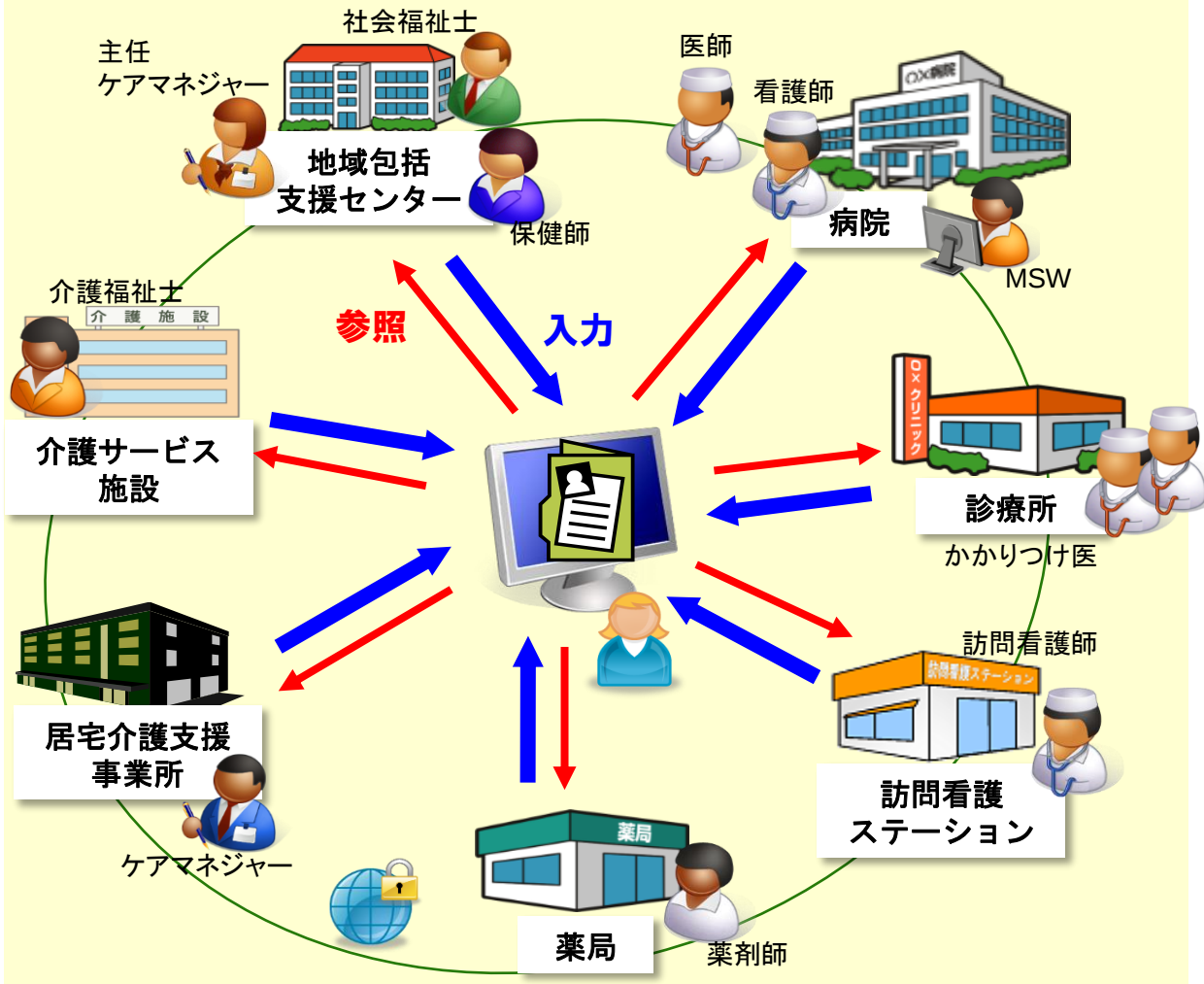
地域医療再生計画の延長により、平成27年度末までの整備が可能

- ①提案内容の多くが多職種による情報共有であったことから、まずは、医療・介護を結ぶ「**情報共有ツール**」を構築する。
- ②診療所からの情報開示、医療情報の集積による地域疾病管理や災害に備えた診療情報保全など、医療関係機関のニーズを踏まえて、引き続き検討する。

H25.10.31 医療ネットワーク岡山協議会第2回会議決定

拡張機能 情報共有ツール「ケアキャビネット」

多職種による情報共有のイメージ



■運用の例(退院～在宅～入院)

①連携シートの起票
病院・ケアマネジャー等がシートを作成

②退院調整会議、サービス担当者会議
多職種へ情報提供

③在宅療養
必要時にシートを更新
患者の状況を時系列に参照

④入院
病院へ情報提供

セキュリティが確保されたネットワークにより、

一人の患者に係る様々な情報を、医療・介護の多職種で共有する。



①患者情報の入力・参照 (画像の取り込み可)

② 連携シート(連携パス)の共有

平成26年3月運用開始

データベースによるデータ連携や利活用

◎医療・介護の連携シートを晴れやかネット上で運用するなど、医療・介護の関係者が患者情報を共有することができるシステムを整備する。

◎岡山県版標準データベースを介して相互のデータ連携、利活用を可能にする。

整備済の晴れやかネット環境（基本機能）

ポータル

ネットワーク(VPN等)

HumanBridge
ID-Link



整備対象：地域医療連携サーバ（拡張機能）

情報共有ツール



データ連携

Web連携

Excel

Word

Z連携

もも脳ネット

むすびの和

地域連携
共有ストレージ

在宅・介護
連携データベース

岡山県介護支援専門員協会様式等をもとに標準化されたデータベースを構築

■タイムラインメモ

- ・職種毎の記録・記載を時系列に並記

■文書管理

- ・分類毎に参照したい記録や文書を整理
- ・PDF、Office文書、画像などをアップロードして保管・参照

■簡易テンプレート

- ・定型句や選択形式、シェーマを活用した入力支援
- ・テンプレート作成機能で任意の入力フォームを作成

■連携シートの共有

- ・既存のWebシステムやExcel/Wordファイルの運用をそのまま利用可能

■データ連携

- ・在宅・介護連携DBとデータ相互連携
- ・在宅・介護連携DBを介して、グループ毎のシート間のデータ連携

高梁地区における在宅ケア体制づくり

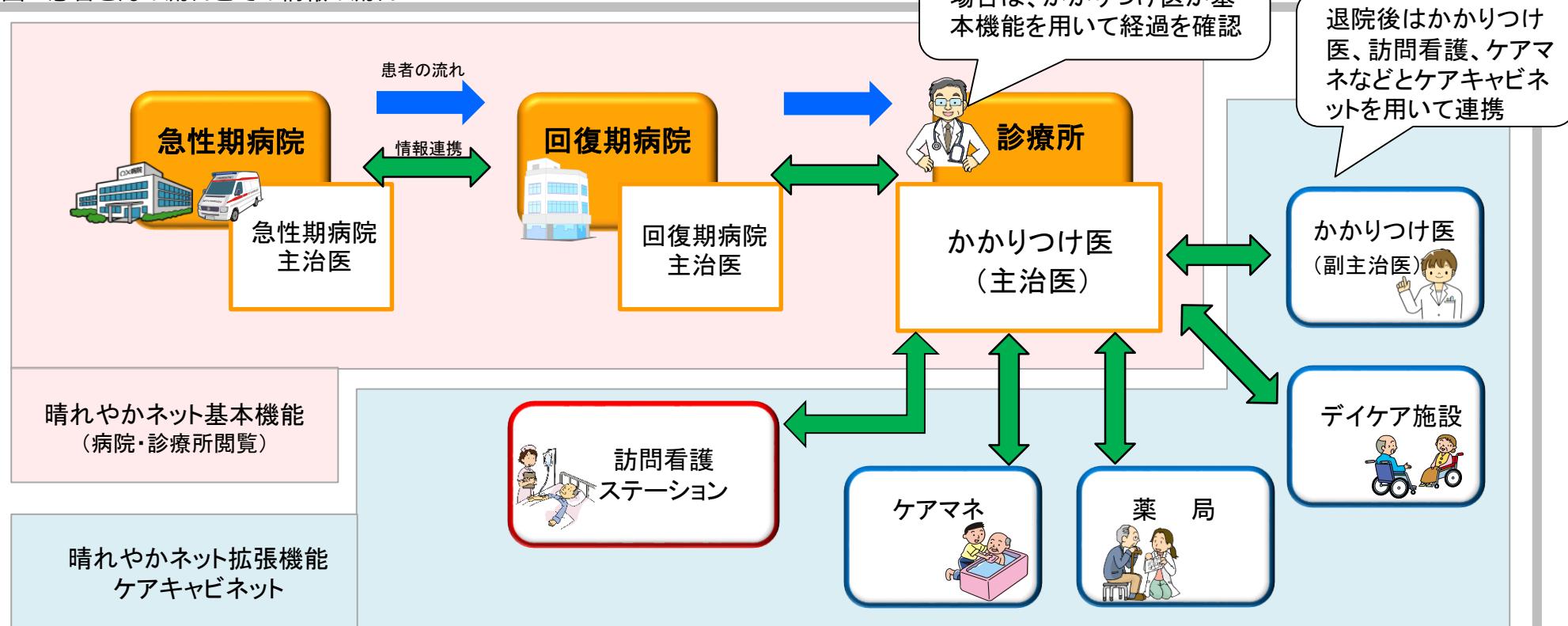
- ✓ 平成25年高梁市在宅医療連携拠点事業推進協議会が発足し、高梁市と高梁医師会で連携して在宅医療の連携体制を構築。
- ✓ 連携の基盤についてシステム検討会・多職種会議などで複数のシステムを候補として検討を行なった際に、8割近くの参加者が晴れやかネット拡張機能「ケアキャビネット」の利用に前向きであった。
- ✓ 平成26年10月に「やまぼうし」として「ケアキャビネット」の利用開始。病院、診療所、薬局、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所などとともに高梁市役所保険課を入れた計17施設、30名で構成。患者から取得した同意書は、高梁市役所保険課で登録・管理を行なう運用をしている。

高梁医師会

連携

高梁市

図. 患者さんの流れとその情報の流れ



今後の機能拡充に係る要望

現在は病院の診療情報だけが開示されている。
診療所からも情報を開示する仕組みができないか。

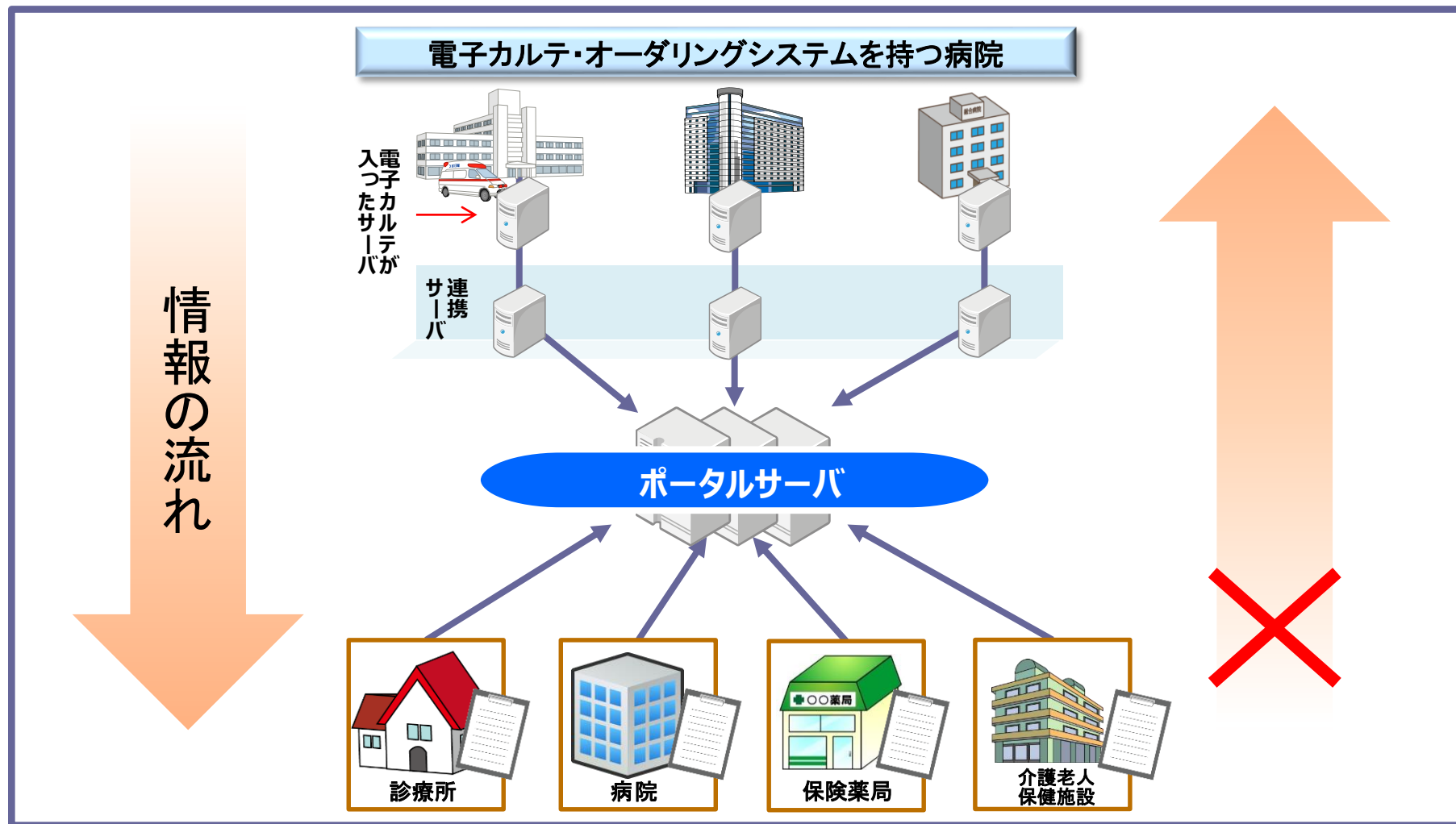
健康診断の結果があれば、診療に非常に役立つ。
健診データを晴れやかネットで閲覧することはできないか。

各医療機関の診療情報を集積し、糖尿病などの疾病管理システムの構築や、大規模災害に備えた診療情報の保全ができないか。

⇒関係団体の要望を踏まえて、引き続き検討する。

基本機能 課題

- 現在の晴れやかネットは情報開示施設の情報を閲覧施設が参照する、一方向の仕組みになっており、閲覧施設である医療機関側の情報を開示することにより、双方向の仕組みを構築することが求められている。

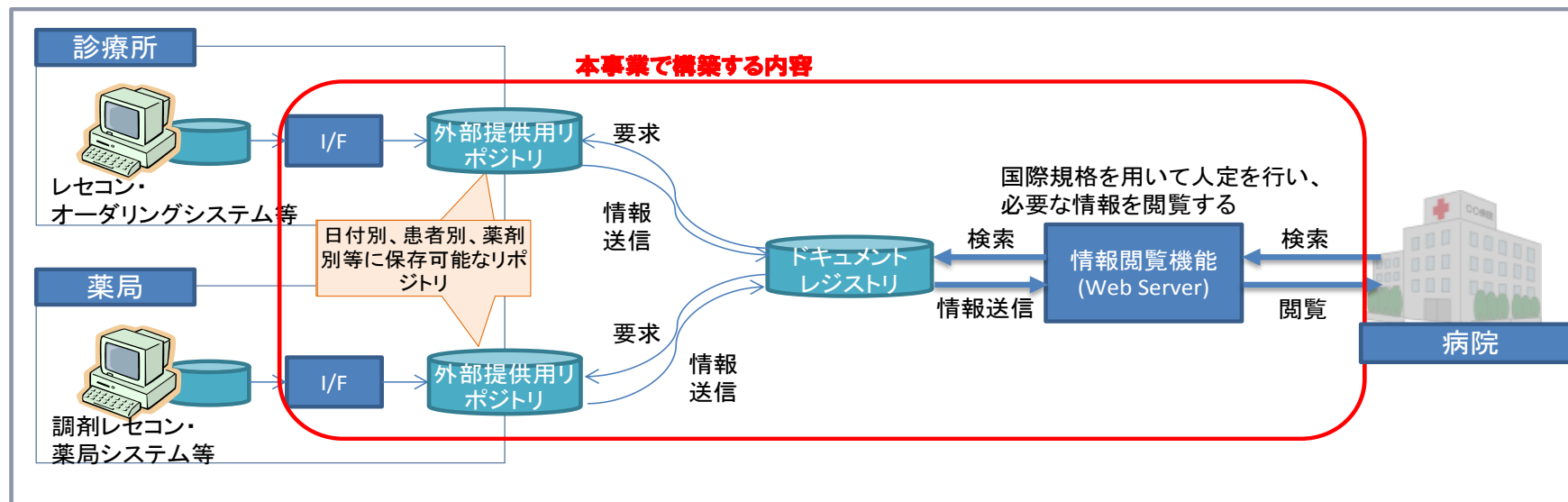


双方向の情報連携の実現に向けて

- ◆ 診療所や保険薬局などから情報を開示する仕組みを構築する実証事業をおこないました。



総務省 平成26年度
医療情報連携基盤の全国展開に向けた
EHRミニマム基盤モデルの実証事業



レセプトコンピュータ等からの情報出力イメージ

実証システム概要

1

電子カルテやオーダリングシステムを持たない小規模な医療機関において広く普及しているレセコンの情報をを用いて開示する仕組みを構築した。

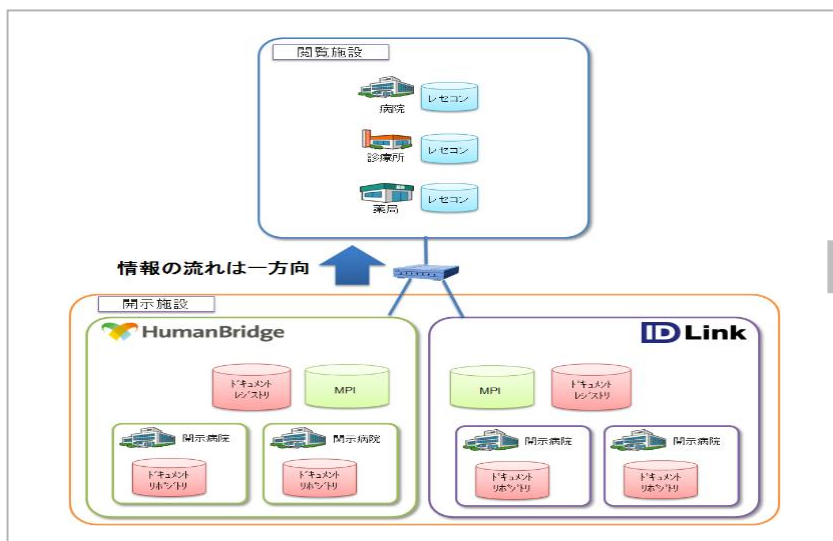
2

情報を外部保存することにより、夜間・休日においても情報の提供が可能となる体制を構築した。

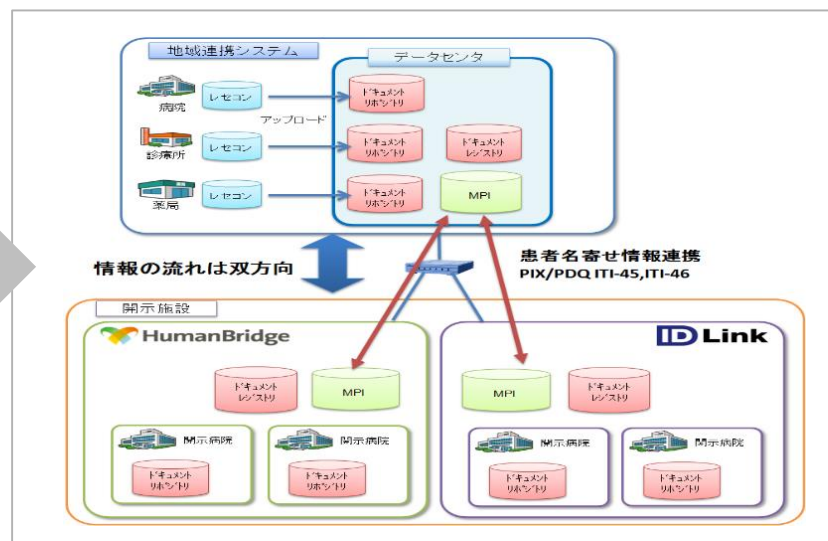
3

マルチテナント型で構築することにより、ハードウェアとミドルウェアおよび運用保守の集約化が可能となったため、分散型で構築する場合の約2分の1のコスト(1施設当たり)で構築できた。

既存のシステム



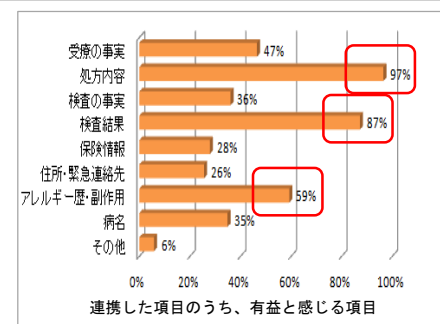
実証事業後のシステム



主な検証結果

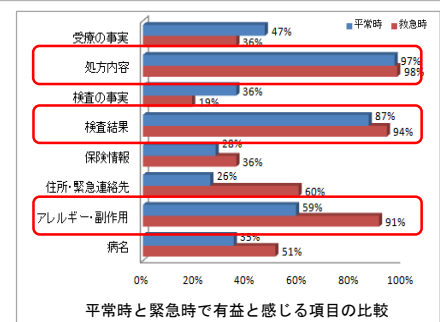
診断・治療の支援に有用であったか

- ◆ 処方重複、禁忌薬チェック、アレルギーの確認、重複検査の回避に役立つ。
- ◆ 過去の検査結果を時系列で見ることにより、状態を把握するのに役立つ。
- ◆ お薬手帳に記載されていない情報の確認や院内処方内容の確認に役立つ。(薬)
- ◆ 病名や診療情報参照により医師の治療方針がわかり、処方監査の際に十分なエビデンスが得られることにより、適切な服薬指導が可能になる。(薬)



救急医療において有益か

- ◆ 救急医療については、平常時と異なる情報開示への同意のあり方が議論となったが、一定の情報(処方や検査結果、アレルギー情報など)へのアクセスが容易になれば、アプローチ(治療開始)までの時間短縮等の有用性が示唆された。

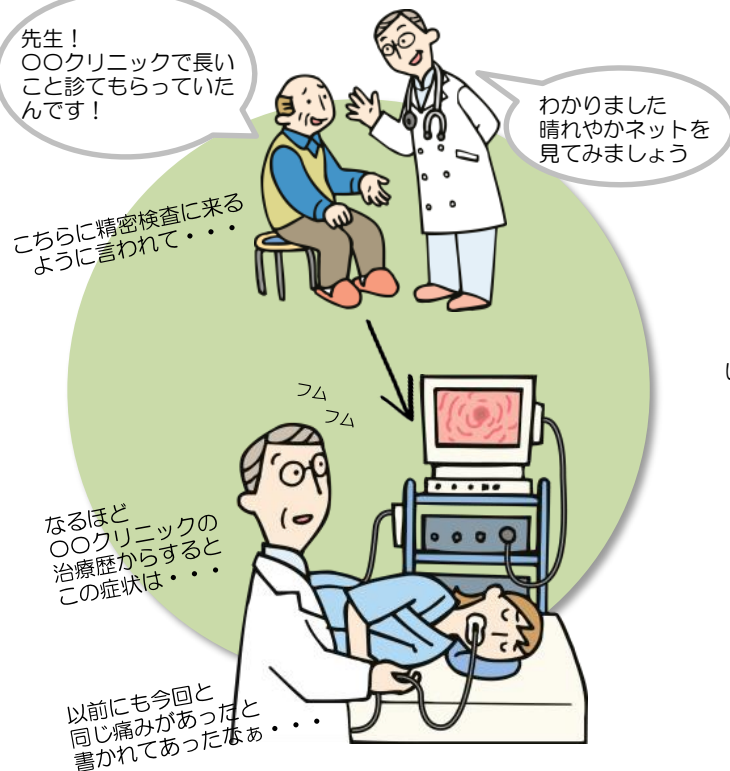


問い合わせ件数や時間の削減に寄与できるか

- ◆ 紹介元以外のかかりつけ医に問い合わせを行う時間の短縮が可能になる。
- ◆ 普段のコントロールを複数医療機関をまたがって経時的に実施している場合において、シームレスな連携が可能になり、時間の削減に寄与できる。
- ◆ 患者の診察前に予習することが可能になり、患者の症状への理解が早くなり、効率化に役に立つ。
- ◆ 診療時間は短くならないが、検査の無駄はなくなる。

閲覧施設などからの情報開示による連携のイメージ

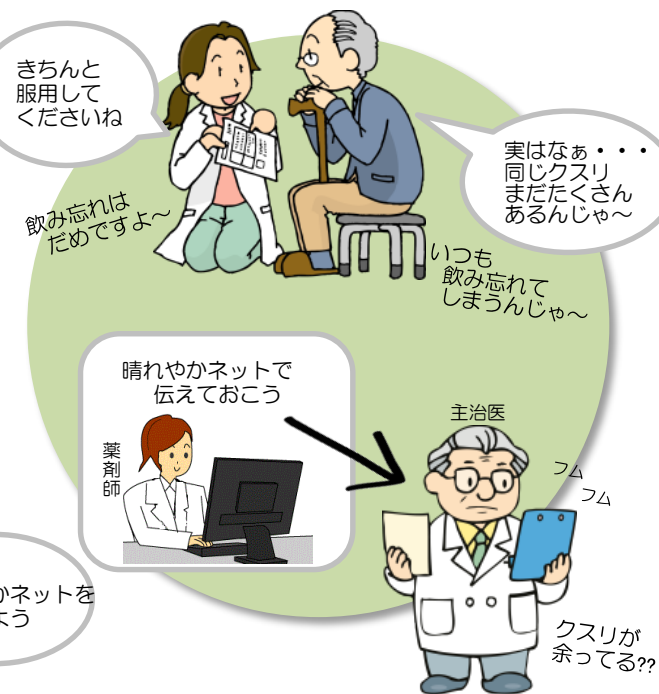
クリニックの紹介状を受けた
専門クリニック で...



救急 の場面で...



薬局 で...



実証事業における評価



日本医師会理事からの評価

- ◆ 晴れやかネットは全県で極めてスマートに運営している。
- ◆ 岡山の晴れやかネットは全国普及のモデルにふさわしい。

日本歯科医師会理事からの評価

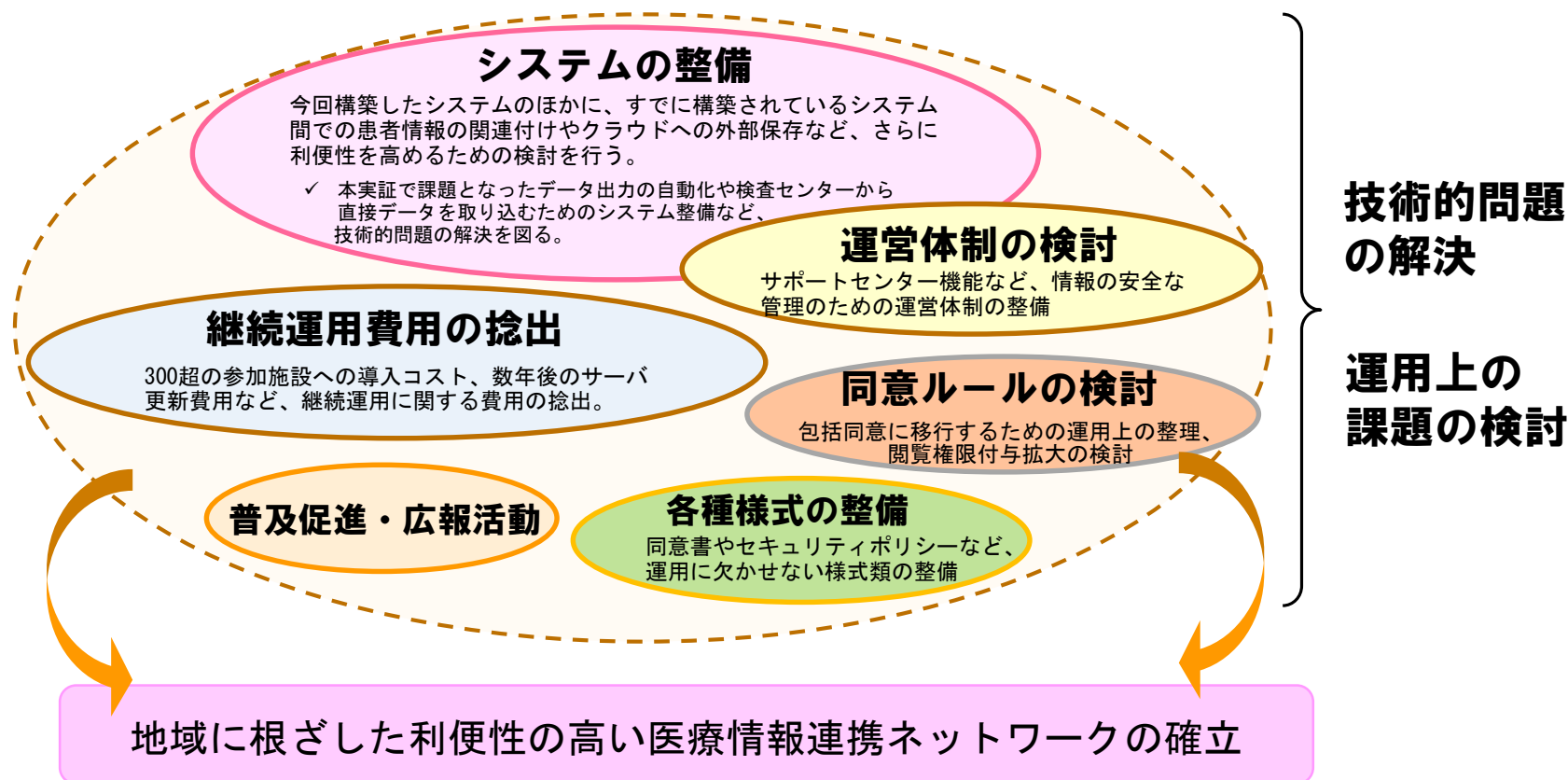
- ◆ 今回のこの実証事業の実施体制の中に岡山県歯科医師会を入れていただいてありがたい。今後このネットワークに歯科が参加できる体制を整備してほしい。

日本薬剤師会理事からの評価

- ◆ 言葉だけかもしれないが、将来に向けて期待できるシステムだという気持ちで岡山における実施報告を見させていただいた。

実証システムの事業継続に向けて

- ① 今後も事業を継続・拡大するためには、関係者の同意を踏まえて、今回浮き彫りとなった様々な技術的問題や運用上の課題を解決しなければならない。
- ② 医療関係団体、県などの行政、有識者などを交えながら、晴れやかネットの運営主体である医療ネットワーク岡山協議会内にて検討を進めた上で、より多くの小規模医療機関等からの情報提供を実施できる体制を構築していく。

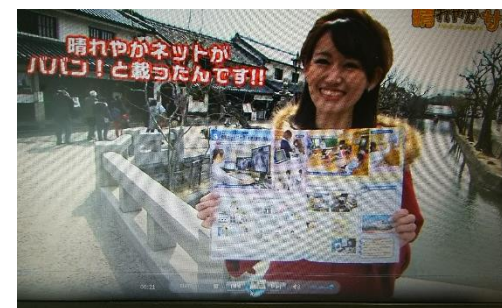


医療情報ネットワークの役割

晴れやかネット画面イメージ



同意を得た患者さんの情報が地域連携システム（ID-LinkまたはHumanBridge）で公開され、かかりつけの医師や薬剤師などが参照する仕組み



広報番組紹介



お問い合わせ先

一般社団法人
医療ネットワーク岡山協議会



TEL: 086-206-3477

FAX: 086-206-3466

URL: <http://hareyakanet.jp>

E-Mail: office@hareyakanet.jp